③ 果樹

プロジェクト	世界に誇る「青森りんご」の次世代への継承
目　標	・高密植わい化栽培の面積　　R4：27ha　→　R10：150ha
挑戦する内容	・青森りんごの総合的な戦略の構築 ・りんご植栽150周年プロモーションの展開 ・高密植わい化栽培の取組促進 ・スマート農業技術等の実証 ・「青森りんご」の基幹となる品種の早期開発・育成
関係者の声 ＝対話	・りんご植栽150周年を好機と捉え、りんごをＰＲするイベントを実施し、情報を一元化することが必要（市町村、関係団体） ・高密植わい化栽培の取組が増加しているものの、専用苗木の供給不足が懸念。また、高密植わい化栽培を実習する機会や場所が必要（市町村、農協、生産者） ・りんご栽培に適した機械の開発は遅れている（農協、生産者） ・ふじを主体とした品種構成により、年明け以降の販売はふじがほとんどとなっており、新たな品種を望む（市場関係者、生産者、消費者）
役割分担	・市町村、関係団体　　：総合戦略会議・150周年記念事業実行委員会への参画 ・苗木業者、生産者、農協：専用苗木の養成、苗木増産に向けた協議会の設置 ・産技センター　　：高密植栽培の実習農場の運用、スマート農業機械等の実証、新品種開発、総合戦略会議・150周年記念事業実行委員会への参画 ・生産者団体　　：新規就農者の定着支援、民間からの枝変わり品種等の収集 ・県　　：協議会等の開催、苗木生産経費への支援
変革後の姿	・青森りんごの総合的な戦略に基づき、関係者が一丸となって戦略的な取組を行うことでりんご産業が持続的に発展 ・りんご植栽150周年を契機とした情報発信により、青森りんごへの関心が高まり、消費の拡大と新規就農者が増加 ・高密植わい化栽培やスマート農業技術の普及、新品種の開発により、生産基盤が強化

令和６年度計画

挑戦する内容

1　青森りんごの総合的な戦略の構築
- 関係団体や産技センターで構成する青森りんご総合戦略会議（仮称）により、具体的な取組を検討（３回／年）
- 「りんごイノベーションセンター(仮称)」整備に向けた設計等を支援

2　りんご植栽150周年プロモーションの展開
- 150周年記念事業実行委員会を開催し、記念式典や記念誌について検討
- りんごの魅力を周知するプレイベントの実施（１回）
- 共通ＰＲマークの作成や芸能人アンバサダーなどによる情報発信

りんごの高密植栽培

3　高密植わい化栽培の取組促進
- 苗木養成と増産への支援
- 新規就農者等向け高密植わい化栽培実習農場の設置と伴走型技術トレーナーの仕組みづくり

4　スマート農業技術等の実証
- 高密植わい化栽培とスマート農業の先進モデル園設置と収穫作業体系の省力化に向けた機械化の実証
- 優良事例の収集に向けた海外先進地調査

5　「青森りんご」の基幹となる品種の早期開発・育成
- 開発期間短縮に向けた品種選抜効率化のための遺伝子解析（形質予測法）の導入
- 高度な品種選抜スキルを有する人財の育成
- 民間からの枝変わり品種や種子の収集

対話

- 部会を開催し、事業の進捗状況を確認するとともに、意見を参考に事業構築（８月、１月）
- 総合戦略会議（仮称）を開催し、総合的な戦略の策定に向けて意見交換（５月、10月、2月）
- 150周年記念事業実行委員会において、イベント実施の推進、情報の一元化、令和７年に実施する記念式典、記念誌について検討し、情報共有（４月、７月、11月、１月）
- 苗木業者等による専用苗木増産に向けた協議会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、苗木養成方法の情報を共有し、苗木生産に反映（４月、５月、７月、12月）
- 新規参入者向けの高密植わい化栽培研修会を開催し、意見交換（５～12月）